

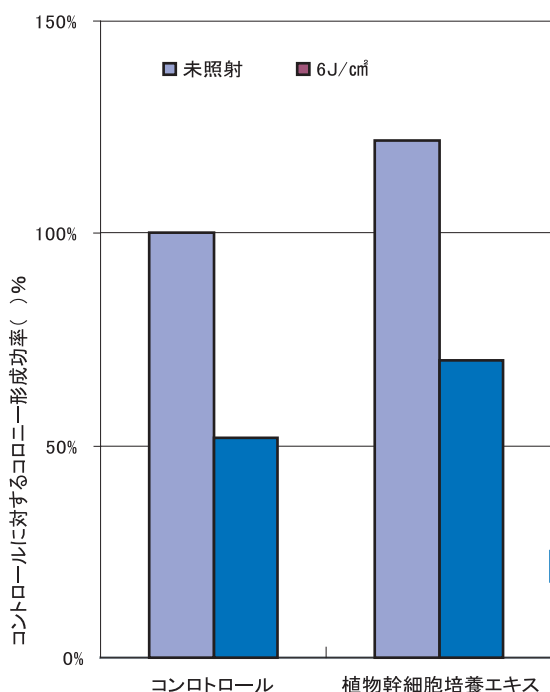
# 植物幹細胞培養エキス

ほとんどの生命体が消滅した氷河期にヌナタックとして知られる氷のない山頂の厳しい環境の下で、いくつかの極限性アルプス植物のみ生育していました。スイスアルプスのヌナタックの植物種は特に高い遺伝的多様性を示し、極限環境に適応が可能です。これら極限性アルプス植物はアルプス地方に定着していきました。そんなヌナタックにおいて、極限環境に素早く継続的に適応出来る特別な保護メカニズムを発達させ、氷河期を生き抜いた植物種であるサポナリア プミラの幹細胞を培養したエキスです。

## サポナリア プミラの幹細胞抽出

- ①サポナリア プミラの一部を採取し幹細胞組織形成を誘導
- ②液体培地の中で幹細胞を増殖

## UV/VIS からの真皮前駆細胞の保護



### 試験方法

細胞層 +/-0.5%植物幹細胞エキスを2日間培養  
UV/VIS (300-800 nm, 6J/cm<sup>2</sup>) 照射  
接着しないウェルに形成した細胞コロニーを移行  
7日後に細胞コロニー数を測定

### コロニー形成効率

(Sphere Forming Efficiency; SFE)

- ・ヒト真皮幹細胞の初代コロニー
- ・1週間後にコロニー数を顕微鏡で計測

→ コロニー数の増加  
UV/VIS からの保護

女性ボランティア20名に植物幹細胞を配合したクリームを1日2回28日間塗布し、しわの深さ/弾力性/ハリ/保湿性を試験をおこなったところ、10%前後のしわの深さは減少、弾力性・ハリは向上し、保湿性に関しては約40%向上しました。

### 期待できる効果

- ・真皮に作用し、抗シワ、ハリや弾力の改善、保湿性の向上
- ・UV 耐性



CURATO

株式会社キレートジャパン  
TEL: 03-5928-4011  
FAX: 03-5928-4012